

12月の相談日です。

日々の生活の中で、誰かに相談したいと思っ
ていることや疑問に感じていることはありませんか。

そんなあなたからの声に応えるための各種無料相談窓口
を紹介します。

秘密は厳守されますので、ひとりで解決しようとせず、
まずは相談してみてもいいかがですか。



静岡市立原市マスコット
キャラクター

*市民相談センターは、市役所棟原庁舎北側の就業改善センター2階にあります。

一般相談

日常生活の中での困りごとや悩み、
分からないことなどの相談を受け
付けます。困ったらずは相談を。

期日 月曜日～金曜日
時間 9:00～16:00
会場 市民相談センター
市民相談センター ☎030088

消費生活相談

契約トラブルや多重債務、通販、
インターネット関連など、消費や
契約に係る相談を受け付けます。

期日 月曜日～金曜日
時間 9:00～16:00
会場 市民相談センター
市民相談センター ☎030088

法律相談(先着8人)

弁護士が相談に応じます。
期日 12月4日(金)・18日(木)
時間 10:00～12:00
13:00～15:00
会場 市民相談センター
予約 8:30～
当日電話予約のみ
市民相談センター ☎030088

心配ごと相談

日常生活から起こる家庭問題や金
銭貸借などの紛争を解決。司法書
士が対応します。

期日 12月11日(金)・25日(金)
時間 9:00～11:30
会場 市民相談センター
市民相談センター ☎030088

暮らしなんでも無料相談

日常生活でのトラブルや悩みごと、
困ったことなどの相談を受け付け
ています。

期日 月曜日～金曜日
時間 9:00～17:00
市民相談ダイヤル ☎054(646)6055

人権身の上相談

人権擁護委員が相談に応じます。

期日 12月5日(金)
時間 10:00～12:00
13:00～15:00
会場 市民相談センター
市民課 ☎030021

女性相談

女性の抱えるさまざまな悩みを、
女性相談員と一緒に考え、解決の
糸口を探すお手伝いを電話や面接
にて対応します。

期日 月・火・水・金曜日
時間 9:15～16:00
会場 さざんか
家庭児童相談室 ☎030083

税の無料相談

税務・会計など税に関するあらゆる
相談に無料で応じます。
事前予約が必要となります。

期日 12月18日(金)
時間 13:30～15:30
会場 市民相談センター
東海税理士会島田支部 ☎054706575

行政相談

行政相談委員が、行政に対する苦
情や要望などの相談を受け付けま
す。

期日 12月4日(金)・18日(金)
時間 10:00～12:00
会場 市民相談センター
市民相談センター ☎030088

介護相談

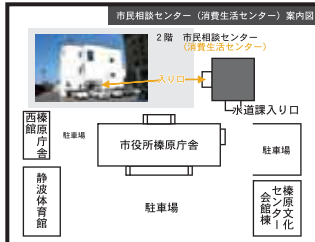
介護する人たちを支えるため、相
談・支援体制を整えています。

期日 月曜日～金曜日
*祝日を除く。
時間 9:00～17:00
(水曜日は19時まで)
会場 さざんか
長寿介護課 ☎030076

高齢者虐待予防相談

「高齢者に関する虐待かな」と思っ
たときの相談です。事前に問い合
わせをして、気軽に相談ください。

期日 12月20日(金)
時間 13:30～16:00
会場 さざんか
地域包括支援センターオーリーブ ☎030822



*職員や来庁者など、他人に会うことなく入ることができます



田沼の改革
新しい貨幣の発行

数ある意次の政策のなかで、
最も代表的なものが貨幣改革
です。

この時代の貨幣制度は、金・
銀・銭の三貨制度が採用され
ていました。計数貨幣の金貨
は、江戸を中心に流通し、秤
量貨幣の銀貨は、上方(大
坂や京都)など西日本を中心
に流通しました。これを江戸
の「金遣い」、上方の「銀遣い」
といいます。また、銭は庶民
の少額貨幣として使用され
ていました。

このため幕府は、「金一兩
銀六十匁」「銭四千文」と
公定相場を定めていましたが、
実際は市場の変動相場制で取
引されました。現代でいう「円

田沼の時代に
流通していた貨幣



一両小判
(計数貨幣)



一分金
(計数貨幣)



丁銀
(秤量貨幣)

安ドル高」のような仕組みが
存在したのです。

さて、ここに一つ大きな問
題がありました。

江戸(金遣い)では、日常
物資の多くを上方(銀遣い)
からの輸入に頼っていたため、
金の価値が下がり、銀の価値
が上がる「金安銀高」が続く
と、輸入に係る費用がかさみ、
米以外の物価が高騰する事態
に襲われました。その一方で、
逆に「金高銀安」が続いても、
上方の景気が悪くなると物価
に悪影響を及ぼしました。

この厄介な問題に対して、
意次は、従来とは異なる新し
い貨幣を発行することで解決
を図りました。

宝暦末期から明和期
(1760年代)の金銀相場
は、金一兩銀六十三匁前後

で推移し、銀の価値が下落傾
向にありました。これは、公
定相場(金一兩銀六十匁)
に比べて「金高銀安」である
ことを意味します。



南鐮二朱銀

この銀貨の特徴は、
銀貨の単位である「匁」
でなく、金貨の単位で
ある「朱」を用いたこ
とです。

当時の金貨単位は、
「一兩四分十六朱」
の四進法が採用されて
いました。ただし、実
際に流通していた金貨
は、一両小判と一分金
が多数を占め、「朱」
を単位とする貨幣は多
くありませんでした。
これに注目した意次
は、この単位の銀貨を

講演会のお知らせ

田沼意次侯生誕300年記念事業
特別講演会「田沼意次遺訓と田沼時代」

田沼意次侯が子孫のために記した「7か条の遺訓」につ
いて、日本近世史研究の第一人者で、東京大学名誉教授
の藤田覚氏に解説していただきます。

日時 令和元年12月8日(日)
午後2時～午後3時30分(午後1時30分開場)
会場 市史料館 2階ホール
講師 東京大学名誉教授 藤田覚氏
入場料 無料(申込不要)

発行し、実質的な「金貨」と
して通用させることで、金貨
の流通量を増やそうとしたの
です。

その結果、南鐮二朱銀は当
初こそ反発されたものの、実
用性の高さから定着に成功し
ます。そして、金の価値が下
がったことで、一時期、金一
兩七十匁以上を付けた金銀
相場は改善し、公定相場に近
いレートで安定するようにな
りました。